



kokoima アーカイブ

2015-2017.8.1

コミュニティCaféここいま開設

～リユースショップぜろ・障害福祉サービス事業所おめでたい オープンまで(まち場は3面に)

堺区香ヶ丘町をまち場と決め、活動を開始する。

はじめに



kokoimaアーカイブ発刊に寄せて。

いつか……精神科病院長期入院中の方が退院する勇気を持たれたとき、退院先がイメージできるよ「誰かとコーヒーを飲んだことがある場」「これから暮らす地域住民の顔が浮かぶ場」そんな場(まち場)をつくりたいと考え始めたのが7年前の2014年でした。

いろんな方を訪ね、たくさんの強烈な知と出会い、私小川の「構想」が具現化する過程を手助けし、ともに行動した6名(設立時の理事)とともにNPO法人を設立したのが2015年晩秋でした。最初の法人会員は、どこからか噂を聞きつけて「(俺たちに)必要なことやから」と1,000円を握りしめてサポーター会員となった浅香山病院ご入院中の人や通院者の人たちでした。

2015年12月末に堺市堺区香ヶ丘町にコミュニティcaféここいまを開いてまもなく6年。「(病院が)使わない家具は使っているよ」と惜しみなく提供して下さった浅香山病院高橋明理事長、会費や寄付で支援して下さった看護職員さんたち、そして看護研究者の皆さん、Caféを開く前からkokoimaをこの地域に受け入れ、関西大学安田忠典教授へつないで下さった雑魚寝館亀井哲夫館長(元追手門学院・大手前中高校部校長)。本当に多くの方々に支えられてきました。

2017年夏にリユースショップゼロと「おめでたい」事業所を開いて4年。このころには、まちの方からテーブルや椅子、日常雑貨など色々なものをいただくようになり、kokoimaはにぎやかな雑然美が個性となりました。

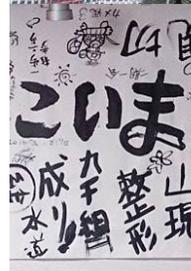
2年ほど前、法人理事松原茂樹准教授(大阪大学大学院工学研究科)から「アーカイブの発刊」をご教示いただき、私達の足跡が誰かの役に立つ?という小川の背中を、職員金澤咲が「発刊しましょう」と熱く押し、2年の歳月をかけてデザインを凝り(笑い)、なんとか発刊の運びとなりました。その過程で「この先の夢」はあらたに生まれてくるものではなく、追いかけてきた夢が実体化されたその先にあるということをあらためて認識いたしました。

故に、ますますkokoimaは未来志向!

香ヶ丘町は市庁舎のある中心部からわずか一駅、難波から各停で23分の距離。大学が誘致されて久しいのにまちの活性化事業の対象となっておらず、大学のあるまちとは少し遠い日常風景。そうしたまちの状況をよしとしない皆さんと、浅香山GENKIプロジェクト(GENKI)を2017年に結成し、「住民の力でボーダレス(性差、障害の有無、年齢などなどに境目を持たない、みんなまちの人感覚)なまちづくり」を合言葉にしています。

そのためkokoimaは、まつりのような大きなイベントはGENKIとともに協働し、常に日常生活のなかにワイワイを生み出す工夫と場づくりを、福祉の立場から発信し続けていきます。ワイワイの中心にいつも「おめでたい」とそのメンバーがいること、それが「まちに開く」を哲学としているkokoimaの追い続ける夢の形です。

2021年7月13日(火)アトリエ&ギャラリーふくもちの2階にて
理事長 小川貞子



kokoimaとは

kokoima わたしたちの思い。

2015年11月NPO法人kokoimaの認証申請を行い、2016年3月18日法人登記いたしました。心豊かな共生社会の実現を理念に、地域に開かれた事業運営に邁進し、精神障がい者のみならず、社会的弱者となりやすい高齢者、子ども、女性、その他の障がい者とその家族の方たちにとっても暮らしやすいまちづくりに、寄与したいと考えてます。

kokoimaのこれまでとこれから。

2012年から精神科の長期入院者とともに、「私の話を聞いてください。あなたと話合いたい」という実名公開ナラティブ写真展を開催してきました。その過程で生まれた「精神科のイメージを変えたい」「社会貢献したい」「誰かの役に立ちたい」というメンバーの思いは、自分自身の思いとして日ごと強くなりました。

kokoimaハウス構想研究会。

この思いを胸に「kokoimaハウス構想研究会」を立ち上げ、この優しい地域（香ヶ丘町）を見つけ、素敵な地域の人との交流も体験しました。私たちの目標は、暮らしの場を提供する事業、役割を見出す事業です。しかし、資金を十分に持たないものが事業所を獲得していくのは少し厳しい状況にあります。でもコミュニティカフェ（Caféここいま）をオープンし、ここ香ヶ丘で新たな出会い、新たな発見を手に入れることができました。この出会いを財産にして、一段づつ階段を昇りながら目標を実現していきます。地域の中の居場所：Caféここいまを大切にしながら。



写真展だけでなく。
写真展以外の活動もメンバー会議を繰り返して計画しました。メンバーで過ごす時間が増えて、絆も深まりました。
大阪城周遊水上バス
大阪観光名所もメンバーのほとんどが初体験。
忘年会でお鍋
みんなが出せるお金700円！
「おいしかった！」「豪華だった！」
カクテル作り！
焼がけや餃子など、賑がなりました。

院内を飛び出して。
茨木病院での共同写真展
浅香山病院以外の初めての開催は茨木病院とのコラボ企画。「次はよその精神病院で写真展したい！」との希望を受けて、浅香山を飛び出しました。この時、KBS京都ラジオの取材も受け、活動の様子が広がりました。(2014.7)
森ノ宮医療大学での写真展
大学のオープンキャンパスにて写真展を開催。多くの学生や一般来場者にメンバーが熱く語りました。(2014.8)

3年間の活動を展示。
3回目の写真展のテーマは「エンジョイ！」
直前活動として53名の訪客をメンバーで訪問。
メンバー撮影の写真も展示し、「活動の歩み」の展示とともに、ココロニヤを深く知っていた多く機会となりました。
院内第3回写真展(2015)
来場者
院内:449人 院外:154人

事務所がオープン。
メンバーが集えるクラブ室のような事務所ができました。外来通院者、ご家族、院内ボランティアアキさん、もちろん入院中の人たちも「ココはおちつく」と来室され、なんだが楽しい場となっています。(2015.5)
森ノ宮医療大学第2回写真展
名刺の渡し方や話し方の勉強をして挑みました。(2015.7)
名刺を持つ手に緊張と意気込みを感じます。

kokoima2015-2017年8月1日までのあゆみ

日時	カテゴリー	出来事
2015/2	前身となる活動	村木厚子氏(厚生労働事務次官※当時)を訪問。退職後の構想を聞いていただく。
2015/3/1	前身となる活動	「kokoimaハウス構想研究会」が立ち上がる 公益財団法人浅香山病院にて ナラティブ写真展「ココ今ニティ」活動 (メンバーは院内合わせて約30名超え)共に担ってきた仲間や支援者の総勢6名
2015/5	前身となる活動	南海高野線沿線の各駅周辺を徒歩にて調査開始。
2015/8	前身となる活動	岡山県 阪井ひとみさん(阪井土地開発株式会社)訪問。 「生命のつぎに大事なお金の使いかた」として物件取得の心構えをご教授いただく。
2015/8	前身となる活動	大阪府 小山隆輝さん(丸順不動産株式会社)訪問。 「人脈が大事。どうして浅香山でしないの?」とピンリ!調査地域を浅香山に定める。
2015/9	まち	雑魚寝館 訪問。館長 亀井哲夫さんが、 関西大学 安田忠典教授を紹介して下さる。
2015/11/1	リノベ	築50年の物件。2棟を賃借。(ここが現在のCaféここいま) 関西大学人間健康学部 安田ゼミと「リノベし隊」を結成。 21歳から66歳までがリノベーションを開始する。
2015/11/7	リノベ	カラオケ好きの大工の岡さんと天井のペンキ塗り。
2015/11/8	リノベ	総勢11名のリノベし隊で、元気に天井のペンキ塗り。 関大生5名、ココ今メンバーズ6名、とくさん (ココ今メンバーズの友人。朝から黙々と重ね塗りをしてくれました。)
2015/11/10	リノベ	小川と大工の岡さんと流しを外し、流し台をピカピカに。 その後、流しの周囲をペンキ塗り。
2015/11/13	法人・リノベ	NPO法人認証申請のため、堺市市民協働課に事前協議 堺市の 市民活動コーナーの無料相談を4回利用 午後は店舗のリノベ。 (関大のあかねさんとかれんさんが応援) 夜は「kokoima構想の会」の会議。
2015/11/14	まち	【カフェの名前をどうする?】「カフェ ここいま」と考えているのだが、 念のため浅香山病院のココ今ニティメンバーズに問いかけたら…… 「けいこ え?? なんて! 「言いやすいやろ」?? 人の名前じゃん 「そんならローズ」 え? 夜のお商売の名前みたいじゃない?
2015/11/19	法人	NPO法人kokoimaの設立総会開催 19:00 浅香山公民館にて開始 20:00 「Caféここいま」にて懇親会。 当日までの入会会員 総数57名(正会員41名、賛助会員9名、サポーター会員7名) 総会への出席会員数41名(正34名、賛助4名、サポーター3名) 総合同会: 廣田安希子さん(浅香山病院師長) 議長: 来栖清美さん(森之宮医療大学 精神看護学教授) 設立趣旨書朗読: 川越香織さん(浅香山病院看護師、産休直前!) 設立代表者: 小川貞子

日時	カテゴリー	出来事
2015/11/26	リノベ	Caféここいまの床を貼りました リノベもほぼほぼ最終! 築50年越えの古民家店舗の床は高低差あり、でこぼこもしてる。 難易度高すぎますので、床貼りはプロにお任せしました。さすがに手早く、美しい! (株)ウナギ百珍の皆さまご来訪!
2015/11/28	まち	
2015/12/11	まち	Caféここいまのデザインコンペに向け、関大生視察に来る! かれんさん、絵が上手なあだちさん。
2015/12/14	まち	12/14 店内レイアウトのデザインコンペ開催
2015/12/18	まち	関大・安田ゼミ生さんたちによるシャッターのペンキ塗り
2015/12/21	まち	Caféここいまに見学あり! 雑魚寝館にて交流。 「出発(たびだち)のなかまの家」の月川さんたち、「HIT精神障害者支援の 会(ヒット)の芦田さん、「NPOフェリスモンテ」の隅田さんたち、「アデランテ 株式会社」の西村さん、スゴイ人たちがばかりが見学に来られました。
2015/12/23	まち	CaféここいまOpen
2016/1/1	まち	お正月 元旦のお客さま、いっぱい。あー嬉しい! 開けてよかった! 私たちも含めて21名。楽しかった! いいお正月だ。
2016/1/9	まち	Caféここいまに下田さんのお手伝いに来られる。
2016/1/11	まち	Caféをオープンして初めての日曜日。Café見守り隊の森口さまに 様々な家財道具をいただく。おしゃれなティーカップも。
2016/1/11	まち	関大生のあかねさんから『いろんな「わ」のつまった素敵な空間になりますように。 「わ」: 輪、和、話、笑、我、私、羽 etc』ここいまのカードのプレゼント
2016/1/16	まち	ちらし寿司定食にまちの人も何人も参加いただき、あっちでガヤガヤ、こっちで ガヤガヤ。だれが入院者? 誰がまちの人? 関係ない。みんなまちの人。
2016/1/30	まち	定食イベント Caféここいまの料理人、土屋さん手作りのたねをみんなで包む「手作り餃子」
2016/3/8	法人	NPO法人kokoima、3/8認証、3/18登記申請、そして法人設立
2016/3/9	法人	「kokoima実践レポート 一精神看護と居場所づくりのハザマで 一回」 アサダワタル氏
2016/3/14	イベント	「土屋料理人のお料理教室」@Caféここいま18:00~ メニューはイワシのさつま揚げ
2016/3/21	まち	Caféここいまのイラストのペイント 廣田さん、小川に加えて益田さんも参加される。
2016/4/7	まち	ふくまるを引き取る 店員第一号! 年齢、1.5カ月。
2016/4/12	まち	にしみやちえさんの絵をCaféここいまにプレゼントしていただく。
2016/4/21	イベント	アサダワタル氏による「暮らしと表現の私塾」がスタート お題: 田中未知さんの『質問』に答える。
2016/5/7	イベント	「ふくまる軒下マーケット」 ボランティアさんのお手伝いで、大好評! ほぼ完売!

日時	カテゴリー	出来事
2016/5/14	イベント	土屋料理人のお料理教室
2016/5/17	まち	5/17はマサダさんの71歳のお誕生日で語られた【71歳のしてみたいことは、沖縄旅行!】映画「オキナワへいこう」のきっかけになる
2016/5/26	イベント	アサダワタル氏による「kokoima 暮らしと表現の私塾」 お題:映画『赤い風船』で飛べるとこまで
2016/6/1	まち	民泊利用後の清掃・kokoimaの仕事として請け負いました! 黒岩さんご夫婦(ヨルダン在住)との突然の出会いが、私たちに仕事を運んできた。
2016/6/5	イベント	【ココ今ニティ・ナラティブ写真展in関大堺キャンパス祭】初回開催 関大の安田忠典先生のご尽力にて実現
2016/6/12	まち	「梅酢」漬けました!大体三ヵ月、それからはどれだけ寝かせてもいらいしい。 料理人中村さんも参加され、お誕生日を祝う。
2016/6/16	イベント	アサダワタル氏による「kokoima 暮らしと表現の私塾」 お題:映画『パイナップルツアーズ』より「麗子おばさん」を観て、 沖縄に思いをはせる……。
2016/6/18	まち	益田さんと沖縄旅行に行く会(仮称)第2回のミーティング。
2016/7/5	まち	患者さん思いの看護師さん、ここいまご最員のまちの常連さま。 今日はサプライズバースデーパーティ。57歳おめでとうございます。
2016/7/15	法人	kokoima ホームページがほぼ完成する
2016/7/17	まち	料理人土屋さん喜寿のお祝い。 首にかけられたものは「ハッピーバースデー」のパンケーキ?
2016/7/18	まち	スケッチブックを持参し、黙々とふくまるを描いてくれる画伯あり! (kokoimaアーカイブの表紙のイラストです)
2016/7/21	イベント	アサダワタル氏による 暮らしと表現の私塾 お題:『遠足 Der Ausflug』
2016/7/22	まち	益田さんと沖縄旅行に行く会(仮称)第3回のミーティング「基地もみておく、 ひめゆりの塔もみておく」私ももう一度戦争と平和のこと、 ここで感じて考えます。やっぱり益田さん、素敵な方。 このような場を創ってくださった方々も、本当に素敵な方々です。
2016/8/22	まち	土屋料理人の旦那さんにcaféここいまの棚をつけてもらう。
2016/8/31	イベント	アサダワタルさんの「暮らしと表現の私塾」 お題:映画『すべての些細な事柄 La Moindre des Choses』を観て、 結局のところ「障害」ってなに? 「幸福」ってなに? 「社会に出るってどういうこと?」って話をする。
2016/9/1	まち	Caféここいま 堺市の「ぬくもりカフェ」認証
2016/9/13	イベント	Caféここいま そば寿司講習会
2016/9/20	イベント	Caféここいま 「ふくまるマーケット」
2016/10/1	イベント	「土屋料理人のお料理教室」ここいまのお料理を味わう会
2016/10/4	法人・まち	Caféここいまの営業日変更 営業日:水～日曜日 10:00～17:00 休業日:月、火曜日
2016/10/30	イベント	「ふくまる軒下マーケット」 目的は沖縄に行くための旅費を稼ぐこと。

日時	カテゴリー	出来事
2016/11/27	イベント	ふくまる軒下マーケット、雨の中でしたが沢山の品物をご寄付いただき、 準備お手伝いもいただき、大盛況。
2016/12/15	イベント	kokoima 暮らしと表現の私塾 今回のお題:2016年に出逢った“仄かな幸せ”について語り合う。 ～アサダの歌「青い鳥」とメーテルリンクの『青い鳥』を織り交ぜながら～
2016/12/18-21	イベント	Caféを閉じて、沖縄に行ってきました!マサダさんと沖縄旅行
2017/1/1・2	まち	Caféここいまでお正月 黒豆が絶品。紅白なますも好評でした。 伊達巻さも喜んでいただきました。
2017/2/6	法人	土屋料理人休職のため、水から日の通常営業の お手伝いボランティアを募集する。
2017/2/16	イベント・法人	kokoima暮らしと表現の私塾/NPO法人kokoima 通常総会/懇親会 @Caféここいま トゥンクンのベトナム料理が日曜日のメニューに加わる。
2017/2/20	まち	3/16～18理事長「JOURNAL 東京迂回路研究 3」 発行記念イベントのトークセッションにゲストとして参加。
2017/3/16	外部イベント	kokoima 暮らしと表現の私塾 今回のお題:いまの人生の“次”について考える。 一映画「AFTER LIFE/ワンダフルライフ」を横目にみながらー
2017/3/23	イベント	4/2、Caféここいまを休業にして、法人会員さん演出の第21回公演 「蒔果」を、5名まちのお客さまと観劇。最後に監督の藤原さん、役者さんと、 感動の写真撮影
2017/4/2	まち	大西暢夫カメラマンが来られる Caféここいままでの書道教室。参加してくれている仲間へ感謝。
2017/4/20	まち	ここいまの隣の物件を賃借し、リユースショップゼロがスタートする Caféで手作り作品委託販売をはじめる。
2017/4/23	イベント	『障がいて難ですか?』大西暢夫写真展開催!! アートギャラリー「ユニバース」にてく浅香山病院 (from大阪)>大西暢夫
2017/5/1	まち	関西大学生2名来店。大盛りランチに張り切る。
2017/5/1	まち	関西大学キャンパス祭 村川ゼミの皆さまに誘われて 【ココ今ニティ・ナラティブ写真展】【出張リユースショップゼロ】を開催。
2017/5/8～14	外部イベント	7月廣田さん採用。
2017/5/24	まち	オープン理事会(理事会に合わせ討論会)の定期開催がスタートする。 ボーダレストタウン講演資料やワークショップを開催する。
2017/6/4	外部イベント	オープン理事会 18:00～テーマは、「おめでたい」(就労B)の8/1開設に まつわることが中心です。仕事って?動くって? 自立って?
2017/7/1	法人	おめでたい作業所開所 初めての登録は田原さん!
2017/7/7	法人	
2017/7/20	法人	
2017/8/1	おめでたい	

小川真子のFacebook日記—kokoima設立からおめでたい開設までおもしろい発信—(2015年11月~2017年7月)

2015年11月7日

kokoimaの物件改修・ペンキ塗り「リノベ」に参加。午前10時から16時まで。天井塗りです！延べ8人の参加。大工の岡さんの見守りのもと「仕事は楽しくやらんとあかん」という、掛け声ならぬ笑い声で開始！なかなか大変、なかなかおもしろいあ〜、皆で力を合わせてコミュニティカフェをつくっていくんだという実感が、ヒシヒシと湧いてきました。明日は13時から。入院中の人も明日は参加予定。浅香山病院の長期入院者の人も、ワクワク！午後から参加の人で終了の記念写真……ちょっと疲れてますか？



2015年11月10日

本日、NPO法人を目指しているkokoimaの事務所兼「コミュニティカフェ」となる築50年の店舗改修を行いました。リノベを始めてからの感想ですが、堺市の香ヶ丘町(病院から徒歩3〜5分)は、私が考えていた以上に精神障がい者との共生社会がある意味実現しているまちなんだと遅まきながら身体で感じています。それは、浅香山病院の諸先輩たちが30年以上も地域移行を先進的に取り組んでこられたおかげなのと、勇気をもって単身で暮らし始めた人たちのおかげ(いい言葉が見つかりません)と、受け入れて下さった地域の人たちのおかげなのだと思います。同時に、長期入院の人が再入院して「一人は寂しい」と心音を語られていたことも思います。そして、リノベ中に「こころは一人暮らしの老人も多いから、話ができる場所がある。皆寂しいのよ」「だから、集まれる場所は必要よ」という声を毎日聞きます。

古い店舗をできるかぎり洗い上げ、改修しながら、ここで日々を過ごすことを、心に刻みこんでいる私があります。そして、丸順不動産小山社長さんから(8月ご相談に伺ったとき)「病院の近くで物件を考えていないの?」という辛口トーンでの直球質問をいただいたことに、心から感謝、感謝……しているのです。さあ、明日からも頑張ります。NPO法人としてのkokoimaの支援者も拡大しています。その過程で生まれている感激のお話は、またkokoimaページでご紹介いたします。

2015年11月15日

一段落ち着いたので、昨日のことをご報告します。うなぎ百珍さんのお誘いで「堺かふぇマル」で出店された【うなたま】【鰻おこわ】販売のお手伝いをしました。男性4名はご婦人キラー如くに、購買意欲をそその言葉かけで販売していき様子にお役目もなかつた見ていた一日でした。出る幕がなかったです。お天気がぐずついていたのですが、何とかお天気がもって良かったです。出る幕のなかった女子達は、ぶらり歩きで過ごしました。私たちココ今メンバーズは、みなさんのお役に立ちたいです。また、機会がありましたら、何かとお誘いくださいませ。

2015年11月17日

【食品衛生責任者の講習受講中】
カフェココいま 運営に欠かせない資格です。食中毒で怖い!でも、講

義の内容は看護教育や継続教育の中で学んできたことばかりです。医師、獣医師は受講免除なのに、看護師は免除資格じゃないのか?かなり疑問。医学を学んだと認知されていないのか?などと感じながら、真面目に学んでいます。

2015年11月19日

【kokoima設立総会のご報告と皆さまへの感謝】
2015年(平成27年)11月19日19時NPO法人kokoimaの設立総会を無事終えることができました!当日までの入会会員総数57名(正会員41名、賛助会員9名、サポーター会員7名)、総会への出席会員数41名(正34名、賛助4名、サポーター3名)、総司会:廣田安希子さん(浅香山病院院長)、議長:来栖清美さん(森之宮医療大学 精神看護学教授)、設立趣旨書朗読:川越香織さん(浅香山病院看護師、産休直前)、設立代表者:小川真子。
懇親会ではみなさまのお声を直接お聴きすることができ、感激いたしました。今の暮らしや社会をもっと住みやすく、格差なく、排除なく整えていきたい思われていること、心にしみて感じ取らせていただきました。おひとりおひとり、今の生活のなかで、自分のしていることの延長として、そのように感じておられることに共感いたしました。kokoimaは、ここからスタートです。リノベの過程であちこち身体にあざができてしまいました。が、そんなことは、なんのその!皆さんのご支援を頼りに、張り切って!進んでいきます。よろしく願いたします。リノベ途中の「Caféココいま」にて開催しました懇親会にも、多くの方にご参加いただきました。改めて感謝申し上げます。また、総会におみかんの差し入れをいただきました井上明子さん、ありがとうございました。

2015年11月26日

【とてもいい話……頑張りたい!】
浅香山病院に入院中の人が病棟名とご自分の名前を明記した紙をもって「サポーター会員になる」と、入会に来てくださいました。これで、NPO法人kokoima(認証申請中)の当事者会員は3名です。感激です。60名近くの会員さんの期待と共感に思いを馳せると、身の引き締まる思いです。頑張りたい……です。

2015年12月3日

Caféココいまが、浅香山病院の人にも、地域の人にも、関西大学生さんにも、多くの人に居心地のよい場となる、という安田先生の言葉に感涙!

2015年12月13日

【行動を変える。何のためにまちでCaféをするのかを再考する】
こころばら、もやもやしている。動物的な感覚が鋭い(中学校の時先生に言われた)わたしとしては、ココは立ち止まって、思考を集中させた方がいい!時!に達しない。ご存知のように、NPO法人を立ち上げ(申請中)当面の拠点事業をCaféで行くと決め準備中であるが……長期入院者ではない者(わたし)が、忙し動き回っている、地域との関係を広げつつある。しかし、大事な何かが抜け落ちている……ような感覚が突き上げてくる。長期入院者となっている人たちは、今、私がかまのち

にCaféをつくり始め、働き場所・居場所をつくらうとしていることで、退院への不安と心配で落ち着かない感覚になっている、葛藤していると感じる。集団の入院生活なんて、本来は日常の当り前の自己決定と疎外されているはずなのに、その不自由さよりも、社会の自由さに孤独と不安を感じてしまう。退院をこんな不安にさせてしまっているのは、病院看護をしてきたこの間までの「私だ」。なすべきことを整理して、行動を変えよう。不安と心配で「今」の自分にもやもやしているメンバーを、人任せにしないで、私自身が働きかけることだ。開店までになすべきことは山積みだが、目先の作業に目を奪われず、最も大切なことをオープンしてから先送りするのは、きっと間違っている。最も大切なことは、準備段階のCaféに「今」から来てもらい、「今」から「ココ」が居場所となるよう行動することだ。うん、整理できた気がする。こんな当り前のことを見失ってしまうなんて、何のために歳を重ねてきたのだろう、自分自身に失望する。目先の準備作業に頭の中が支配されていたなあ。がんばろう。

2015年12月17日

【詰めの細かい作業で……大忙し。でも、うちらほどおもしろいことしている人いるんやろか!?と、今日は思えるのです】

14日、関大生安田ゼミさんとデザインコンペで、すべてのことが決定し最後の仕上げに向かって……ひた走っています!本日から、「23日オープン」の営業ポスターを掲げました。ドキドキ、ドキドキ……。立ち止まって、見てくれる人多い!(よし、よし)そのせいか、訪問者もあり。そば打ちができる人、発見した!手洗いが完成(さすが、阪口君)。キッチンの棚設置で、機能性向上(これも、さすがの阪口君)。室内の装飾もいい色彩感覚でほぼ完成(小川、頑張りました!メンバーの協力ありがとうございます)。金曜日のペンキ塗りに向けて、大工の岡さんもボランティアで、シャッターのサビ落としてくれた(バフをかけるというらしい。感激!)。ここ数日の活動を写真でご紹介いたしますね。

2015年12月22日

【看板、できました!】【ココ今メンバーズの応援で、サンドに入れるゆでたまご10個切れました】
深井にある看板屋ウエムラさんが設置。友人の阪口君と、はいポーズ。大人だけかわいさを感じている。ありがとうございます!そして、メンバーの松尾さんが、サンドの仕込みを手伝ってくれました。指がきれい。10個のたまごがきれいにさばれました。そのあと、生野区を中心に大阪市内で活動されている人たちの交流にも参加。「楽しかった」と。*交流会の様子は、kokoimaページにて、報告いたします。今日も、何でしよう……本当にいい日でした。どうぞ、プレオープンにおくじくださいませ。一般の人よりも一足お先に、Caféココいまをお楽しみくださいませ。



2015年12月27日

【Caféココいまは、年末年始営業します!】
28、29とお休み、30、31、1月1日、2日と営業します!1日、2日はコーヒーとおせち料理のみ。13時から営業。1人でお正月を過ごす〇〇な人は、ぜひご来店を!どうしようかなあと、思案中でしたが決めました!営業して4日過ぎました……行政への用事、類天疱瘡の猫の世話などなすべきことをしなければ。うちの飼猫、この1ヶ月、家族が朝から深夜まで誰も帰らないので、一人引きこもり状態です。家の片隅でジ〜とわたしを見つめています。ぎゅと抱きしめてやらなければ。猫も寂しいんだなあ。私もお客が少なく、浅香山のココ今メンバーが来ないと寂しいものなあ。

2015年12月31日

本日30日の、cafeここいまに来客!曾根勝一 道さん(若年性認知症の人と家族と地域の支え合いの会 希望の灯り)たまたま居合わせた浅香山の訪問看護ステーションとバチリ!元旦のおせちを作ってくれる土屋さん。膝がいたいの、味見してお煮しめ持ってきてくれました!美味しい(^q^)! 皆さん、元旦のここいまのおせち料理に期待してくださいね!

2016年1月1日

新年あけましておめでとうございます。といっても、今年ほど新年を実感していない年はないのです。多くの人に支えられ、「明日はなにをするのか」考え続けている延長線上に毎日が存在していて、気づいたら「新年なんだ」という感じ。これまでの友人たち、昨年からは絆を結ばせていただいた人たち、そうした多くの方々との交流の中で、ときどきグツと不安になったとき「大丈夫、私は一人じゃない」と励まされてきました。人への支援の仕方を、この歳になって学びなおさせてくださいました。このことを表現する最適な言葉を「ありがとうございます!しか持たない自分が、まことに残念です。でも言わせてください。心から感謝しています。ありがとうございました。あ〜、今日はどんな日になるのでしょうか。土屋さん、中村さんおせち料理を作ってくれてありがとう。この料理を、どなたが食べに来てくれるのでしょうか。メンバーは、お小遣いのなかから500円を出せる努力をしてくれるのでしょうか。まちは人は果たしてどんな人がしてくださるのでしょうか……などなど心配しながらですが、コーヒー飲んで、元旦開店の準備にかかるぞ〜。みなみなさま、今年もどうぞよろしく願いたします。

2016年1月1日

元旦のお客さま、いっぱい。あー嬉しい!開けてよかったです!私たちも含めて21名。楽しかった!いいお正月だ。まずゴリさんご一家が来店。お母さんが素敵。お重への盛り付けを助けていただき、さすがにうちのようなんちゃっ



主婦とは大違い。Caféここいま手伝ってほしいなあ。はじめてのお客さまも3名。私に気をもたせて、おっとり刀でココ今ニティーメンバー来店。嬉しかった!閉店後、安田先生ご一家来店。あんまりかわいいお子さんなので、バザーの売り子に勧誘。色好い返事をいただきました!今日もよく笑った!皆様へ感謝。さあ明日も頑張るぞー。明日は、メンバーの女性来店予約あり。ふふふ、やはりオンナ同士はいいよねえ、楽しみです。

2016年1月23日

【本日22日、Caféここいまのいい話】

まずはお客様のこと。「近所で、ここはおいしいという評判があるから、一度は来たかったの」という女性の方が初来店。やった～。お正月のおせちに参加してくださったお客さんが「この間の餃子定食はどうやって作ったの?私も上手よ!それを聞いてび～んときた!!チーフ料理人の土屋さんと即決した。ちかいうちにみんなでぎょうざを作って食べようか。面白そうだ。訪問看護師さんと一緒に来店された男性の方は、野菜のっていますカレーライス定食を食べて「おいしいです」。「紅茶、おいしい」と何度もつぶやかれたお客さん。「検査入院の前においしいものを食べさせてもらって、ありがとう!ですって～。(ここいま店主は、紅茶の葉もこだわっているのです!)次に、まちの人のやさしさについて。開店直前に訪れたココ今ニティーメンバーさんが、いったん病院に戻ろうとして道に迷った。そこで、Caféここいまの小川の名刺をまちの女性に示し、迷ったから連絡してと願った。小川の携帯にその女性から連絡あり、駆け付け。お礼を言い名を尋ねると「私の母も、徘徊でずいぶん皆さんのお世話になっているから、お互い様です」と。そうなんだ!皆いろいろな事情の中で、他者を大切にしようとして生きてるんだ。お互いさまって言葉……なんて素敵なんだろう。メンバーは、困った時に名刺を使うようになって。それもステキ。今日はいい日でした。しあわせ……。そして、やっぱりくもりカフェ(認知症カフェ)は、やらせていただく。

2016年2月11日

【Caféここいまの近況報告】

まちで営業するって、楽しくワクワクするけど……体力つかう!家に帰るとバタンキューのCafé店長でしたが、本日祝日にてお休みし、体力チャージできましたので、久しぶりに近況報告いたします。まずはCaféここいまの料理人と、料理話のこと。浅香山病院ココ今ニティーメンバーズ(写真クラブ)の人たちのこと。身体治療から回復し、初めてここいまへ来店してくれた友人のNさん。「絶対に歩いていけないと思う」といった詩人(と、小川は思っている)のJさんのこと。料理人は土屋さん。何だろう、彼女の味は「上品で優しい」つまり、料理も(看護同様)その人となりができるのだ。20数年前に共に働いた人。仕事ぶりそのものような、控えめだけど丁寧な味。わかるかな?わかりたい人はCaféここいまに来るべし!堺のそば寿司の元祖中村料理人も来店し、試食され「上品な味」と太鼓判!そして、定食お常連の近所の雑魚寝館館長電井先生の満足そうな笑顔もついでに。さて、ココ今ニティーメンバーのこと。身体治療から回復したNさんは、カメラマンの大西さんや、写真展で出会った杉原さんたちに「自分は元気になる!つづつ」ことを、facebookで紹介したいと。看板の前で、

同伴してくれた師長さんと記念撮影。皆さん、ご安心ください。お元氣です。詩人のJさんは、一人で来店。「今日は調子がとてもいい」と。お店のお客さんの大きな声の雑談の中、詩をつくっていました。詩は撮影したのですが、投稿の許可をいただくのを忘れました…残念。病院を辞めてCaféを経営している小川を氣遣う、優しい詩でした。写実的でありながら、思いやりにあふれ、私のことをこんなに思ってくれている人が病院の中に他にいるのだろうか。このような人を友人といわずして、だれを友人というのでしょうか。以上、近況報告でした。まだまだ、素敵なことは起きているのですが、それは次回のお話しに。

2016年2月29日

Caféここいま、オープンして2カ月経過!今回は、店主Sadako Ogawaとして、眩みます。なんだか感慨深いものがある。そして文句なしに、愉快。まちの中に見えること(もの)、それが普通の日常なのだね。隔離、収容のなかで(あえて、直接的な表現をしました)見えていること、嘗まれていることを日常にはいけないのだという思いが深まるばかり。そして、自分のことを自戒する毎日。2月27日の土曜日、東京から来客あり。日本看護協会出版部の村上さま。ほぼ1年ぶりの再会。質問をされました。「看護部長の仕事と経営は違いますか?」ふむ……ふむ。マネジメントを活用するという点において共通している。でも……でも、なんでしょ。まだ、日々のお金を管理している?ばかり。成果が経理に反映するかどうか、継続の指標になる?と、強く考えている? kokoimoのミッションがビジネスとしても結果することを意識している?当たり前だけど、毎日の出納に全霊を捧げている?と書くと、守銭奴みたいに思われるかもねえ。清潔な空間づくりと、人が見える食事・飲み物、居心地良しの演出、そして経理!そして、いよいよNPO法人として認証が間近!そんなわけで……若き事務局長を求めています。ただし、まだまだボランティアで遂行している段階だからなあ～と思いつつも心が求めています。27日は、ココ今ニティーメンバー(浅香山病院の写真展活動の仲間も来店し、大阪から来店された深江さん(お写真なし)とも、なんだか意気投合。珍しいお客さんが来店されるときに、いつも運よく居合わせる人。「僕の詩を紹介したい」。はい、紹介いたします。

2016年5月19日

【73歳のしてみたいことは、沖縄旅行!】

5月17日は、マダさんの73歳の誕生日。集まれるメンバーが集って、Caféのケーキセットでお祝い会。「73歳の抱負」と、「73歳でやりたいこと」2つのカードを書かれました。「沖縄に旅行してみたい」その心は?「沖縄は一度も行ったことがないから。どんなところかな～と思って」素敵!皆、マダさんのしてみたいことを受け……一緒に行く!と(しばしの逡巡の後……)決まってしまう～。わわわ～、これは楽しみができたぞ。美ら海水族館、読谷川のそきそば、海ブドウ井……。Caféを訪れていた関大学の学生さんや、まちの人、おたんじょうびおめでとう!と、拍手で参加。最後は、記念の集合写真。あ～～いい日だった。



2016年5月20日

【ちょっとお疲れ気味……そんな時には、これこれ!】

Caféここいまで、マイペースのふくまる。飢えきたればすなわち食い 眠気きたれば すなわち眠り 目ざむれば すなわち遊び そんなふくまるを撮る人……さらに出現。ふくまる大好きカメラマン関大生尾崎さんの写真に癒されましょ。私が一番癒されたのかなあ～。



2016年6月5日

私の所属するココ今ニティー写真展メンバーは、本日関西大学堺キャンパス祭の場をお借りして「ココ今ニティー出張写真展」を開催できました。大西暢夫さんの素晴らしいパネル写真は感動をよび、被写体のメンバーさんも大変喜んでいらっしゃいました。安田先生はじめ人間健康学部のみなさま、会場に来て頂いたみなさま、私たちに豊かな時間を過ごさせていだいてありがとうございました。病院からも理事長はじめ看護部からも激励、ありがとうございます。精神障がいに対する偏見をなくするため、ともにこの社会で生きる一人の人として、このナラティブ写真展を発展させていきたいと思えます。私が撮った写真から雰囲気だけでもお伝えできるといふなあ。

2016年6月11日

本日(6月11日)は、少し緊張している。私はいつもそうだが、楽しい企画が実現するまで身体はワクワク感でスキップしたい感じ。でも、精神は楽しさを持続しながらやり遂げるまで……緊張している。ふふふ……本日の緊張は「益田さんと沖縄に行く会(仮称)」の第1回だから。ご案内のニュースレターは好評だった。皆、私のような高揚感を携えて……きてくださるかな?あ～～、ドキドキしている。本日15時から16時まで。Caféここいまにて開催。

2016年6月14日

【沖縄旅行についてか?……決まりました!】

いままらながら、やりたいことがあるのは希望(夢)があるってことだと再認識。希望を持った人は、発する言葉に力が生まれ、表情には張りが出る。その人を包むオーラが明るくなる。その人のそばに居合わせている私も、影響を受けて明るく力がみなぎってくる。71歳益田さんががしたことは、「沖縄に行きたい」。益田さんと沖縄に行く会(仮称)が発足し、第1回の会を開催しました。希望(夢)の実現話は……明るく、ワクワク、キラキラ。うん、うん、楽しい!行く?「12月!」その心は?「……ボクの誕生日12月20日」(益田さん)「12月にしましょ。私も誕生日を祝ってもらったから、沖縄で〇〇さんのお祝いしましょ!」希望を持った人は、さらにやさしい人になる!



2016年7月4日

【Caféここいまの近況・居場所づくりについて】

店員のふくまるに語ってもらいます。「ボクが来て間もな3カ月。穏やかな春の季節だった。今は暑い!店内30度を超えたと、店主が叫ぶ。クーラーが入る。でも暑い。ボクは時々、床に腹ばいになって寝る。少しひんやりする。でも、不思議だ。暑さとお客さんの来店者数は比例しているように、大混雑の日がある。店主の化粧が剥げる(失礼!)が、ボクは言わない。そういえば、ユニオンおおさかという機関紙にCaféここいまが取り上げられ、早速お客さんが来てくれた。店主はもちろん喜んだ。こは不思議だ。フェイスブックを見て来た人、大学生、まちの人、浅香山病院から来る人、地域生活を実現している人……いろんな人が混在して、音楽なんか必要ないほどワイワイ、がやがや。ボクの居場所(定位置のソファ席)もとられてしまうほど混雑する時間がある。それでも、お客さんは店主にこう言って帰る。「まったく!」[時間を忘れて長居した]そしてこんなことも。「ふくまる、かわいい!」そうなんだ。ボクはみんな触られる。気に入ったお客のかばんに入る。写真撮影にも応じる。ボクも頑張っている。そういえば、ボクをスケッチしてくれる女性がいる(浅香山病院から来る人)。今度その人の個展を店主は開きたがっている。ボクも居場所づくりのツールらしい。少なくとも店主はそういう。Caféの向かいの歯医者さんは、大のネコ好き。いつもボクを撫でてくれる。店主のことをふくまるちゃんのお母さんと呼ぶ。なんだか、照れるな。また、NPO法人kokoimoの副理事さんを中心に、民泊の清掃が進んでいる。大変そう。お客さんもこの暑いのに……と、同情しながら見守っている。でも、この事業で働く場所を作りたいと、店主たちは考えているようだ。次の機会にこのこともっと語りたい。

2016年8月22日

本日はカフェここいまの休日、だからまたまた模様替えしちゃいました。かねてから取り付けたかった棚……つけてもらいました!土屋料理人の旦那様。さすがに技術職。新婚の頃は、自宅のお風呂を作ったんですって!感謝です。さっそく「子どもの脳は肌にある」を飾りました。大好き!



2016年10月23日

【沖縄に行く会】

やっつ、ついに、きた!きた!きたあ～!これまでの益田さんと沖縄に行く会の、「沖縄に行くか?の本気がやっつきたあ～!」決め手となったのは、若竹福祉会様による写真展開催のご協力。感謝!です。10月22日の会合で、申込用紙に名前を記入いたしました。しかし、まだまだ気は抜けません。これで、少なくとも12月18～20日の予約が取れますね。会合で表現されてきた会話の要約。「16年間、一度も外泊したことがない人間です!」簡単にいくとは決められない。現段階では五分五分です!「こわいわ。海が怖い。ハブが怖い!」お金はどうするの?高いわ。一度も外泊したことない人は?の問いに、「私!俺と、ほぼ全員。入院してから旅行の経験は?の問いに、「OTのキャンプ」だけ。どうして行く



ことを迷っているのです?の問いに、「迷惑かける」。迷惑って?の問いに、「夜3回は起きるで」「誰が、夜、下着かえてくれますか?ってことや」「わからへん」「旅費がない人はどうするんや?」稼ぎましよう。Caféここいまの軒下でバザーしましよう。毎月バザーして、沖繩を楽しむだけの旅費を稼ぎましよう。というわけで、10月30日(日)バザー「ふくまる軒下マーケット」いたします。合言葉は人生楽しもうよ!

2016年10月29日

車いしばザー用品運んでくれたのは、浅香山病院の副部長森口さんと杏ちゃん!ありがとう♪

2016年10月31日

昨日10月30日、Caféここいまのバザー。目的は沖繩に行くための旅費稼ぐこと。写真では分かりにくいですが、とても賑わっていたのですよ♪多くの方から、ご支援を受けました。心から感謝いたします。沖繩での写真展と、な〜ん年ぶりの旅行に向けて、メンバーの本気度は鉄板のように固まってきた! ホントに。大西暢夫カメラマン、アサダワタルさん、じゅんこさん、森口さん、阪中さん、宮里さん、大西nurseさん、そして包丁研ぎをボランティアでご協力いただいた中村料理人さん、その他にも多くの方に支えられました。ありがとうございました。

2016年11月3日

この人、通称ワッペン君。Caféここいまの店員第2号。店員第1号は、猫のふくまる。ワッペン君は、とても器用です。洋服を改良します。もちろんこのワッペンも、自分で着けているのです。ふくまるより、働き者です。Caféここいまに、11月2日、福井市からの訪問客あり! 訪問看護ステーションを立ち上げるために、意気揚々のお二人。田中さんと松山さん。田中さんとは7年ぶりの再会。感激!私たち、夢の途中。

2016年11月5日

ここいまナウ。Caféここいまは、ただいまライブ中! 南部交流センターさんの慰労会です。ええ感じです。

2016年11月27日

本日「ふくまる軒下マーケット」、大雨の中開催されました。私が結婚するときに、おばあちゃんが買ってくれた包丁が刃こぼれて、錆びて切れ味が落ちたまま、この20年ほったらかし。この包丁を丁寧に大切に中村料理人さんに研いで頂いて、命を吹き返しました。その仕事ぶりが丁寧で気持ちの良いお仕事に、感動しました。亡くなったおばあちゃんのこと思い出して、家族の食事作ろうかな〜。おばあちゃん、喜んでくれるわ。今度お母ちゃんにも見せてあげよう。ふくまると一緒に。良い時間。



2016年12月13日

Caféここいまは、家族が集まる時こそ、まちで友人と集まろう、と今年も考えました。ここいまに来れば、ワイワイガヤガヤはじまる、始まる。おせちと一緒にいかがですか?おせち食べないけど、ふくまるも出張ってますよ。(^^)

2016年12月22日

【Caféを閉じて、沖繩に行きました!】

思うに、リカバリーとは個々人の希望を実現する取り組みなんだと。「一生に一度沖繩に行きたい」という希望を精神病院の長期入院者は実現できないなんて……なぜかしら?そんな無理やろ〜と、入院中やかからとあきらめてしまいがちな個々人の夢・やりたいことを一緒に実現することが、リカバリーへの道なのだ。と今回の旅で再認識しました。伴走者も、実現のためにともに苦労する道のりが、リカバリーへの道のりだと学びなおしました。5月、Caféでおこなわれた益田さんのお誕生日会。

71歳の豊富(一生に一度沖繩に行きたい)で心がボンと弾み、「行こうよ沖繩」「行けるわけない」なんて?「入院してるし、金ないし」お金なら、バザーで集めよう。何とかなるなる。浅香山病院の長期入院者の皆さんが頑張ることは、担当の看護師さん、主治医、家族に気持ちを伝えること。伝われば、皆さん応援してくれるはずだよ。がんばって。沖繩旅行のテーマはみんなで「冒険」と決めて出発!。冒険旅行が、カメラマン大西暢夫さん、若草会の皆様のご協力でお沖繩写真展へと発展しました。夢を本気で実現しようとしたら自然に温かい繋がりが生れ、その温かさが、トラブル続きでかたくなになりがちな気持ちをほぐしてくれました。

今、この場で私たちが孤立しているように思えても、頭を上げて、視線を高くしたら、一人じゃない、夢を支援しようとしてくださる人達が見えてくる。それが、なにより力になってきました。若草会の村田涼子さまとカフェめしギャラリーさまの皆様、大西暢夫カメラマン、堺市の香ヶ丘町の皆様、浅香山病院の皆様、心から感謝いたします。

2016年12月26日

24日ここいまに益田さんから電話。初めて! 嬉しかった! 沖繩の集まりはないのですか?そこへ、森ノ宮医療大学の来栖先生、永江さん、セゴウ画伯、西口さんも来店。急速 沖繩旅行の報告会開催となりました! いうして写真で振り返ると、忘れていたこと思い出すから、いいですねと、益田さん。いやあ〜僕が行けなくて、申しわけなかったと、西口さん。帰り際、セゴウさんの個展をここで開いてあげられないのですか? それを受



けてセゴウさん、はい頑張ります!と、満面の笑顔。

ふくまるも、いつになく真剣に聞き入っていました。あんたもわかるよね、私たちの大事な節目、私たちの……変容(あー もっと適切な言葉知らない?)。

2017年1月1日

新年あけましておめでとうございます。本年も皆さまにとっても、良い一年になりますように。Caféここいまの元日のお料理と、喜んで召し上がってくださいお客様の様子を感じてください。黒豆が絶品。紅白なますも好評でした。伊達達きも喜んでくださいました。明日2日も営業しています。是非お顔をおみせくださいませ。お待ちしております。



2017年4月18日

【うれしかったお話し二つ】

一つめ。「就職が決まった」と報告に来てくれた人がいる。就職活動に踏み出せた要因の一つは「ここいまがあったから」。Caféここいまのボランティア(バザーや出張販売のお手伝いなど)が、「自信につながったと思う」ですって二つめ。「ここいまがあるから、ホント助かってる」という人がいる。「一人でいると(いろんな事考えて)あかんねん!」ボーダレスな居場所づくりがビジョン。時々これでいいのかしらと妙な気分になることがある。それぞれの人にとっての居場所は、時にいろんなものが結合したよくわからないエネルギーとなってCaféを覆うことがある。けど、人の集まる場って、それが「普通」なんでしょ、きっと。

こんな素敵な言葉を聴いたりするのだから、これでいいのだろうと前を向く……笑。

2017年5月26日

5月25日、阪大老年看護の山川みやえ先生が、認知症学会(沖繩)へと旅立つ前に、トマト持参でカフェここいまに。オーダーは、トマトをここいまで食べさせてね。そして、お客さんたちにもトマトをシェアしてください。こういうオーダー、大好き!美味しさの共有って、言葉よりもコミュニケーションに有効性あり。この日はお客さんたちと、美味しい思い出話に浸りました! 沖繩、いってらっしゃい〜♪



2017年5月27日

6月4日は、関西大学堺キャンパス祭。ここいまは、村川ゼミの皆さんに誘われて、一緒にリサイクルショップと写真展を開催します。テンジ君、

タナカ君が担当なんだって♪ まちの人と気合いの撮影! 写真の主役も来店して「行きますよ」のキメ写真! みなさん、関西大学堺キャンパスに来てね♪

2017年7月3日

【長くなります。ごめんなさい by sadako gawa.】

7月2日、ハーモニーの新澤克憲さん、カブカブの鈴木励滋さん、このお二人のトークを聞きたくて、奈良県たんぼの家で開催されていたイベントに行ってきました。kokoimaの直近の課題(居場所づくりから、役割のある場づくり)にトライ中なものですから、私が最も着目している先人の知恵をお借りしなかったのです。お二人のトークは素晴らしい実践的でありかつ哲学的あり、なぜそのように体現されてきたのか、かなり衰えてきた私の五感にも強烈に染み込んできました。役割のある場をどのような場にしていくのが私の中でクリアになってきました。kokoimaの「場」を選んでくださったメンバーを見る。メンバーの愉快さ、強さ、たくましさを見る。かって看護師時代は、こんなことをストレングスを見る。な〜んて言ってたなあ〜。そんな言葉をなんだか味気なく感じてしまう今の私です。共に時間を過ごす、共に行動する体験の中でしか、人としてのどうしようもない? 愉快さ、強さ、たくましさなどは、みえてこない?と学び直したのです。イタリ映画「人生ここにあり!」のように、どのようにしたら自分たちが楽しめるのか探求していくことを、kokoimaの基盤にしていこう。それがリカバリーへの道。私にとって、お二人の存在は先人であり、憧れであり、尊敬であり、勇気の源である。7月20日木の理事会は、いつものように オープン理事会です。よろしければ、ご参加下さい。

2017年7月21日

【オープン理事会を終えて、おめでたく就労継続支援Bを開所できます!】昨日7月20日のkokoimaの理事会には、多くの方にご参加いただき……感激!すでにアサダワタルさんが報告をアップしてくれていますね。<https://www.facebook.com/asadawataru?fref=fb&pnref=story> 看護一筋、やむなく管理も一生懸命取り組んできたわたしとしては、地域、福祉は真つさらさらの領域、ということも変ですが、それぐらい、病院という箱の中でのみ私は生きていたということ(自戒を込めて)。ということで、理事会をオープンにすることにしました。福祉の先輩たちを含め多彩な人々たちからご意見いただきたい! そんな気持ちを察してか(笑)、いまままで交流があった人からさらにその友人の方を誘って下さったりで、なんと! 120名を超える方がご参加くださいました。私としては、いくつかの迷いが晴れ、新たに工夫が必要なものも理解でき、まさにおめでたくおめでたいという名の就労B開所に向けて突っ走れるわ。私たちのCaféここいまから、リサイクルショップ、そして就労Bおめでたい、その次は誰でも入れるアパートづくり(いけるかな? そこまで……でもいいのだ、いきたい)。それまで、オープン理事会続けようかしら? 皆さん、よろしく願いますね。kokoimaページもどうぞよろしく願います。<https://www.facebook.com/kokoima.kaorigaoka/>

2017年7月25日

昨日、堺市から就労Bの正式に許可がありました。ただいまから、これからお世話になるであろう機関や事業所を回らせていただきます。その前に、土用の丑の日! パルファンコリーヌで鯉買いました! 元気だしていきましょう♪

メディア掲載

○新聞

第2の人生を明るく楽しくやりがいを持って！ SS応援団はそんな毎日を過ごせるようお手伝いします。

SS情報ひろば



発行 堺市セカンドステージ (SS) 応援団運営協議会 事務局・堺市高齢施策推進課、電話072-228-8347
事務所 〒590-0078 堺区南瓦町2の1、総合福祉会館市民活動サポートセンター内、メールボックス33
電話 (FAX) 072-232-0029 e-mail: info@ss-ouendan.jp

3 2016 (平成28) 年10月1日 (第29号) SS情報ひろば (季刊) URL <http://ss-ouendan.sblo.jp/>

社会貢献の現場から

今回で登場頂くのは、病院でこもりがちになる患者さんと地域の人たちとの触れ合いを願い、病院近くでカフェを開いた元看護師さん。NPO法人の資格を取り、近くの関西大学堺キャンパスから学生もやってきて、笑顔の絶えない店として根付いてきた。

浅香山駅近くに「カフェ」を開いた小川貞子さん



私は数十年前、看護学生だった頃から精神科について強い関心を持つようになり、対人関係に端を発する人間らしいというか、不思議な病だからです。親には反対されましたが、就職先として浅香山病院にお世話になりました。看護師を続けていて気が付いたことは、患者さんたちは入院中も退院後も、内にもこもりがちになってしまっていることです。2012年、プロの写真家が来院して病棟の日々を撮影し「精神科看護」という重話誌に掲載されました。



人気者ふくまる

町のひととの繋がり願い 楽しい催しどんどん

載らなかつた多くの写真も含めてどれも魅力的だったので、「ココ今ニティ」と題して院内写真展を開きました。大好評で、患者さんの顔が一層素敵になりました。これを発展させ、地域のみなさん「コミュニティ喫茶」のような店ができればどんなに素晴らしいだろうと思うようになりました。14年に思い切って退職。病院の近くで南海浅香山駅からも近い場所(堺区香ヶ丘町1)に昨年12月、「カフェ」をオープンさせました。今年3月にはNPO法人「KOKO IMA」を立



料理担当の土屋邦子さん (右) と名コンビ

した。コーヒーの淹れ方などは私が勉強し、料理担当は同じ病院で看護助手をしていた土屋邦子さん。土屋さんとは、退職後に店の近くでほったり会い意気投合しました。15人も入れれば満員の店内ですが、関西大学の学生さんも来てくださるのでいつも賑やかで、収支もようやく合うようになってきました。土屋さんの日替わりランチは好評で、今後は料理教室はもうあんまりやらないで人が集まる楽しい事をやってみようと思っています。一人暮らしの人もどんどん来店してくるようになって欲しい。町のみなさんとの繋がりをもっと強めたいのです。猫が1匹いますが、近所で子猫のときに捨てられ処分のため連れていかれる寸前をもらい受けました。「ふくまる」と名付け、いまでは看板猫のような顔をしています。(談)

REPORT

「ココ今ニティー写真展」 開催報告 in 浅香山病院

「ココ今ニティー写真展」を開催するための写真メンバークラブ委員長
公益財団法人浅香山病院 看護部長兼副院長

小川貞子
おがわ さだこ

はじめに

2012(平成24)年8月に、『精神科看護』の企画で、カメラマンの大西暢夫さんが当院を訪問され、建物と患者さんやスタッフたちを撮影されました(『精神科看護』2012年9月号に掲載)。その写真があまりにも素敵で、私たちが輝いていると感じました。創立90年となる当院の建物も、誇らしげに写っていました。

写真展開催!

大西暢夫カメラマンの写真から強く感じたことは、「よい写真は人を刺激し、元気にさせる力がある」ということです。何回も何回も見たくたくなるのです。さりげなく向けられたカメラ、じーっと見つめてくるカメラ、いずれも、私たちが尊重されていることが伝わってくるのです。

この素敵な写真に写し出された日常を、多くの人に伝えるた

めには「写真展を開催するしかない」という衝動が湧いてきました。撮影された人、撮影に立ちあった人、写真に感動した人たち総勢22名(患者さん9名、職員13名)が有志で集まりました。写真展の名称(「ココ今ニティー写真展」)や写真の選定・タイトル決定、展示方法や写真当日のスケジュールに至るまで話しあい、開催までのおよそ2か月間、楽しくも緊張感のある毎日でした。

「ココ今ニティー」という名称の提案者である八野さん曰く「ココ」は、この場所やここにいるみんなのこと、「今」は、今という時間と(浅香山病院のある)今池町の今、「ニティー」は、まあ語呂合わせやな。

メンバーの行動で 大成功!

3日間(11月26~28日)で延べ494名(院内419名、院外75名)の

来場者を数えました。大成功したのは、以下のようなメンバーの行動があったからと、自負しています。たとえば、職員メンバーが行動する前に、守衛室、理美容室、売店、出入りの業者など主だったところにはすでに案内状が届けられていた、職員メンバーは、行きつけの美容室で額縁を寄付してもらった、自分の地域の人に呼びかけた、などです。また当日は、1人1人が病棟の仲間を誘いました。主治医も誘いました。自分の写真だけではなく、写真展全体の語り部として行動しました。とにかく、みんなががんばりました。しかし、大西カメラマンが開催中にボランティアで写真撮影に応じてくださったことがいちばんの成功要因かもしれません。

メンバーズクラブの一員となって写真展を企画・運営した患者さんに感想をいただきました!

*写真展の直後に直筆で書かれた感想文を同意のうえ掲載しています。

●かわかみキヨシ(ペンネーム)
先生方や大西カメラマンの苦労が偲ばれました。自然な態度、身のこなしにはばれはれました。

そして、少し私の心が自然と開いたことをうれしく思います。

●田村正敏さん
ウェ이터をするのがたいへ

ん楽しかったし、うれしかった。そしてたくさんの方に来ていただき、ありがとうございます。来年も写真展を期待しています。



図1~2 22名のメンバーが展示するための写真を選定した



図3 写真展当時の様子

●西口 学さん(ペンネーム)

みなさまとお友だちになれてたいへんよかったです。そしてみなさんに精神科病院とはどこか、どんな人間たちか、伝達できたことは、たいへん嬉しいことです。みんなでやればなんでもできることがわかりました。みんながそれぞれの役割を十分に果たしました。「この写真展を開催しよう」と提案された方にお礼申し上げます。

●原三喜子さん

私は受付の役割でしたが、写真を見に来てくださるみなさまが楽しんでくださり、がんばった甲斐がありました。お役に立てたことを誇りに思います。メンバーズクラブに入ってよかったことは、いまは亡きAさんの供養になったことです*。きっとAさんも喜んでくれていると思います。これでAさんが生きていたら文句の言いようがありません

んが、今日、Aさんが生きていられないのが口惜しくてたまりません。残念です。でも成功したので悔いはありません。

また、カメラマン大西暢夫さんにお会いできたことがとてもよかったです。大西さんは飾り気のない、とても人間味のある尊敬できる人です。Aさんも私と同じことを言っていたと思います。大西さんという写真家だから成功したのだと思います。今後も

おおいに活躍してほしいです。写真は嘘を言いません。写真は正直です。写真を見に来てくださる方も正直で、よい人たちばかりです。写真展を今後も開催してほしいです。

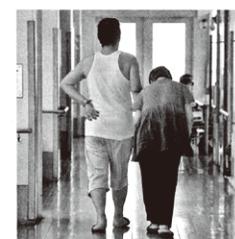
●森屋敷桂子さん(ペンネーム)

メンバーズクラブのみなさまと成功に向けて楽しく話しあいできたことがよかったです。また来てくださった人たちに「よい写真ですね」と誉めていた

だきましたが、自分も写真に映っているの、ちょっと恥ずかしく思いました。

●守屋一郎さん

いろんな写真が見られてよかったです。また写真を撮られた大西さんとも少し話をする事ができました。その後の打ち上げでは、たくさんのお寿司と珍しいお菓子が食べられてよかったです。



★Aさん(左)は撮影が行われた時期に告知を受け、延命治療を拒否され、原さんの看取りのもと永眠されました。(撮影:大西暢夫)

○ 雑誌



長期入院者が希望を持って退院し、 地域で支え合う居場所づくり

Caféここいま / NPO法人 kokoima (大阪府堺市)

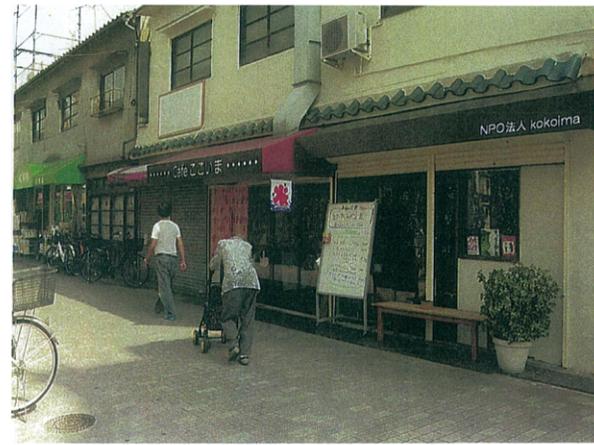
地域に開かれたコミュニティカフェ「Caféここいま」は「精神疾患を持つ人の社会・地域での居場所づくり」を目的に、元看護部長が立ち上げたNPO法人kokoimaが運営する事業の1つ。病院を外出来店する精神科入院患者も、退院後に地域で暮らす利用客も、まちの人から受け入れられて互いに温かな関係を築いている。同NPOが現在行っているカフェ事業を中心に、精神疾患を持つ人と地域住民がともに在る“居場所”づくりの挑戦を紹介する。



上 / 2015年12月にオープンした「Caféここいま（以下：カフェ）」は、浅香山病院から来店した入院患者や住民たちで朝からとてもにぎやか。この日は、店主でNPO法人kokoima理事長である小川貞子さん（写真中央）の元同僚の節長（写真左）が、101歳になるお母さん（写真左から2人目）を連れて立ち寄った

下 / 調理を担当する土屋邦子さん（写真左）は料理上手な元看護助手。カフェの開店というタイミングで小川さんと偶然、再会したことがきっかけで、2人で店を切り盛りするようになった

看護 2016
10 日本看護協会 機関誌
Vol. 68 No. 12 October 2016



左 / カフェは南海電鉄の浅香山駅前、商店街の一角にある。近隣の関西大学の安田忠典准教授のゼミ生たちとともにリノベーションして店舗をつくり上げた

上 / 水曜日の星時は「浅香山病院アンダグランド就労ステーション」の就労継続支援B型事業である「てくてく商會」の惣菜販売に店の軒先を貸している

皆が社会で生きる1人の人として いられる場所

“ココ今ニティ”とは？

- ・「ココ」の場、「ココ」にいる人たち
- ・堺市「今」池町（浅香山病院の所在地）、現在の「今」
- ・コミュ「ニティ」

右 / 毎日、小川さんと出動する“ふくまる”と会話しているのは商店街に住む常連さん。心強い地域のキーパーソンだ



入院患者によるナラティブな 写真展からの広が

精神科患者が希望を持って退院し、暮らしていける居場所づくり、通称“ココ今ニティ”の活動は、浅香山病院の元看護部長・小川貞子さん（NPO法人kokoima理事長）が同院在籍中のころに始まる。

同院の精神科棟で精神科看護専門雑誌の取材があった^{*1}。写真家の

大西暢夫さんが撮影した入院患者の日常風景の写真はどれも魅力的で、誌面に掲載されなかった写真も「みんなに見てもらいたい」という患者や看護師からの声に、小川さんは「院内写真展」を提案した。

組織横断的に立ち上がった実行委員会には、被写体だった長期入院患者も主体的に参加した。単なる展示に留まらず、「現在の自分の姿と思

いを感じとってほしい」と、被写体となった本人が写真解説を添え、来場者に語りかけた院内写真展は大成功する。やがて系列病院や、近隣の医療系大学のオープンキャンパスでの開催など“出張写真展”へと拡大していった^{*2}。

写真展活動では、院内のレクリエーション活動では見られなかった患者たちの生き生きとした姿があった。

*1 訓練やリハビリを目的に、現地点で一般企業への就職が困難な障害を持つ方に就労の機会を提供する
*2 「精神科看護」2012年11月号
*3 2015年の日本看護学会—精神看護—学術集会でも展示



上/絵の得意なこの患者は浅香山病院から来店するたびにふくまるを写生して1日を過ごす。カフェには病棟師長が付き添ってくる。来店し始めたころは車いすだったが、今では歩けるようになった



右/スケッチブックには店内のさまざまな会話を書き込まれている。それを読んだり、1日に描いた絵を見ながら語り合う

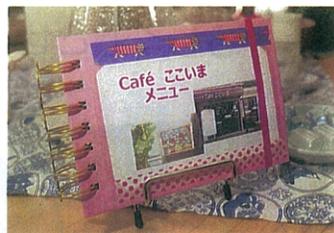


小川さんは「皆さんとても豊かにコミュニケーションができ、力を持っている。この方たちは退院すべきなのだ」と改めて実感する。だが精神科では入院が30年、40年と長期に及ぶ場合も多く、本人も退院をあきらめてしまったり、退院できたとしても1人で暮らすことに孤独を感じて疾患が再発してしまう場合もある。そのような人たちが希望を持って

退院できる居場所を地域につくりたい——そう強く思った小川さんは退院を決断しNPO法人kokoimaを立ち上げ、精神疾患を持つ人々と社会との関係を築いていく取り組みを始めた。

「できること」や「楽しみ」を見つけていく

NPO法人でめざしたのは、精神



上/飲み物や軽食などのカフェメニューと500円の日替わりランチを提供する

左/カフェに通い始めたことで服薬量を減らせた入院患者もいる。浅香山病院師長でNPO法人副理事の廣田安希子さん(写真中央)と、浅香山病院からランチを食べに来店した患者(写真右)、そして小川さんと最近の体調などを話し合う

疾患を持つ人だけが集まるような特定の施設づくりや「場所だけ」を提供するのではなく、まちの人にも偏見なく受け入れられ、皆が一緒にいられる居場所づくりだった。そこで「人が集まるところにはおいしい食べ物や飲み物がつきもの」と、まずは同院から徒歩圏内の商店街にコミュニティカフェ「Café kokoima(以下:カフェ)」を開店。



元師長の加藤栄子さん(写真左)が、カフェで開催予定のバザー用に商品を持ってきてくれた。「小川さんが飾らん人柄やらかな、ここに来ると、キューッと張っていた気持ちがスッと落ちくんですよ」



内装もボランティアの学生たちと交流しながらつくり上げていった

自分らしく過ごせる拠点にカフェを活用



近所にある淡水魚ミュージアム「雄魚養館」の皆さんが、うなぎを使った創作料理の試作を持って来店。店舗を探していたときに館長の亀井哲夫さん(写真左)が力になってくれた



閉店後や定休日の週末には、認知症カフェや住民のサークル活動のためにスペースをレンタルしている

カフェには外出許可のある入院患者と送迎の看護師、既存の社会復帰プログラムに適応しにくい人、そして近隣の住民などが訪れ、飲食を楽しむつづらや休憩などに利用している。店内では映画の上映会や料理教室も開催。患者ら有志のメンバーによる沖繩旅行も計画中だ。閉店後のカフェは、地域で暮らす元入院患者が「職場」として清掃に通うな

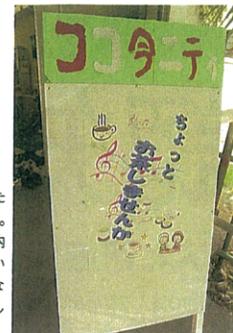
ど、皆が、さまざまな形で生きる目的や楽しみを見つけている。人々が孤独や寂しさを感じずに暮らしていくために必要なものは「通うこと」のできる場所や「人と話せる環境」あるいは「仕事のあるところ」など、さまざまだ。

浅香山病院の師長で、NPO法人副理事としてもココ今ニティの活動に深くかかわる廣田安希子さんは

「当院からこのカフェに通うようになった方が自分の生活や仲間をつくり、単独でここに外出できるまでに回復していく姿を見てみると、人にとっての希望や居場所って大事なんだよ、ということがよくわかります」と語る。40年近く入院している年配の患者も今では1人でカフェまで外出して、まちの人とともに過ごせるようになったという。



左/小川さんがめざすのは、誰も排除されない、排除しない社会づくり。「ケア提供者を育てていた看護部長時代から、もういっぺん自分自身がケア提供者になることで、看護師としてやり残したことをしたい」と話す



右/浅香山病院1階に設けられた「ココ今ニティ病院内事務所」。NPO法人を立ち上げる際、院内のデイケアサロン等に参画している患者が「私にとって一番大事な活動だから」と会員第1号を申し出てくれたという



毎週木曜の昼に浅香山病院内で開催する「ココ今ニティメンバーズ」会議。この日は森ノ宮医療大学オープンキャンパスでの写真展開催を控え、入院患者や同院の看護師・臨床心理士などのメンバーで打ち合わせをした

現在は“居場所づくり”の第一歩

カフェは地域住民の“居場所”にもなっている。「まちの人も長い時間いてくれて、公民館のように結び付く場所となっています」と小川さん。看護師がいることで自然と住民からの健康相談も受ける。近隣の大学の講義でココ今ニティが紹介されたことで、学生も来店して患者とつながりを持ち活動に参加するように

なるなど、ココ今ニティは地域をつなぐ拠点になってきた。

「入院患者さんも“社会貢献したい、役に立ちたい”と話しているし、写真展のほかにも皆と一緒に活動できることを見つけていきたいですね。まずは写真展にお見えになった人に、このカフェを認知していただくとしています」(廣田さん)。

「今度は就労支援の作業所をつく

るのか、住まいづくりか、それとも異なる道か……。この先の事業をどんな形にしていくのか、NPO法人の理事会でも構想中です。できるところまで、みんなでやってみます」(小川さん)。

このカフェも、あくまで「まちの中の居場所づくり」という夢の第一歩なのだ。

撮影：坂元永 文責：編集部・米丸未央子

媒体：日本看護協会機関紙『看護』2016年10月 vol.68

発行：日本看護協会出版会

執筆：米丸未央子(編集部)

わたしのキャリアシフト

本パートでは、キャリアをシフト（転換、移行）して活躍を続けている方、マルチステージでさまざまな役割を担っている方々の経験をご紹介します。どのようなタイミングに、どのような思いを持って自身のキャリアと向き合ったのでしょうか。キャリアをシフトしたきっかけ、その過程での悩みなどを通じて、キャリアに対する考え方や今後のビジョンについてご提示いただけます。

“安心できる居場所のあるまち”をつくる

NPO 法人 kokoima 代表
小川貞子

おかわさだこ2008年から公益財団法人総合病院浅香山病院の看護部長を務め、2013年より副院長を兼務。2015年3月の退職後は、2015年5月「こいまハウス構想研究会」立ち上げ、2015年12月「Café こいま」をオープン。その後、2016年3月NPO法人kokoimaを設立。2017年5月リサイクルショップ「ゼロ」8月には障害者自立支援法に基づく多機能型事業所（就労継続支援B型・生活介護）※おめでたいを開所した。

看護部長から
「地域福祉の人」に



午前9時、店員ねこの「ふくまる」^{註1)}を背負って「Café こいま」に到着する。

「あのお兄ちゃん、8時間前から来てるで！」。クリーニング屋のおじさんが声をかけてくる。

私は思う。ふむふむ、さもありなん。多機能型事業所^{註2)}「おめでたい」を利用する人の朝は早いのだ。「寒なったらかわいそうやで。店のシャッターのカギ預かったらか？ わしなら大丈

夫や！」ありがと、おっちゃん。ほんま涙でるわ。

「病院の人」から「まちの人」に キャリアシフトしたわけ

2015年まで勤務していた浅香山病院は精神科救急病棟（スーパー救急）を有する精神科・神経科病棟、精神科身体疾患併症病棟、一般科病棟などからなる病院である。90年近くの長きにわたり大阪府堺市において精神科を中核とした総合的な医療を提供してきた。

看護部長を務めていた2012年から「ここ今ニティー写真展クラブ（ここ今ニティー）」に、精神科の長期入院者、病院内多職種、院外関係者（地域活動家、カメラマン、教員、シルバーなど）の人たちと共に取り組んできた。この写真展は撮影こそカメラマンの大江暢夫さん^{註3)}だが、開催に至るまでの写真選び、写真のキャプション作成、ポスター配付といった運営作業は、メンバー全員で行っている。長期入院者本人が写真の前で観覧者を待ち、「This is me」「お話ししましょう」と声をかけ会話が展開される、ちょっと風変わりな実名公開のナラティブ写真展である。

しかし3年目を迎えた頃から、私の中で1つの「問い」が生じてきた。写真展の会場で初対面の人と豊かなコミュニケーションを展開し、心地よ



Café こいまの外観



店員ねこのふくまる

い疲労とともに心を充たして「家路」につく。入院者は精神科病院のベッドへ、私は自宅へ。3年間変わらないこの事実が、看護師としての「自立」を刺激する痛みとなって、私を日に日に苦しめた。

精神科の領域でも地域移行が進められているが、退院する勇気を持ってない「ここ今ニティー」の人たちが、いつか退院する気になった時のために、まちの中に施設という「箱」とは違う居場所をつくれぬか。居場所があれば、一人暮らしという不安と孤独を少なくできるのではないかと。そのためなら、私はまちの中で行動できるのではないかと。そのような思いが募り、病院の退職を選択した。

まちの中の居場所づくり

退職した時点では、まちの中の居場所づくりという思いが先行した私の構想は、厚生労働省事務次官（当時）の村木厚子さんや、アサダワタルさん^{註4)}など多様な人たちに語ることで具体性を帯びてきた。

多くの人が、とりわけ大阪府堺市香ヶ丘町の人や団体に支えられ、現在は3つの事業を展開している。「Café こいま」の来客者比率は、まちの人と精神障がい者が5.6対4.4（2017年8～10月の平均）。リサイクルショップ「ゼロ」は、まちの人がまだ使える不用品を店に運んでくれる。時には施設へ転居される方の衣類なども引き取る。そして障害者総合支援法に基づく多機能型事業所「おめでたい」の運営も始めたが、そこにもまちの人たちが「何してるの？」と出入りする。

「1つひとつの事業がまちに開かれているか」。それが私の評価尺度である。まちの中の高齢者や子ども、男性も女性も、障がいのある人もない人も、皆でがやがやお喋りをするボーダーレスな場へと発展していくことが願いである。

「なぜ看護師さんが地域で福祉を？ 専門職なのに……」と、聞かれたりするが、地域包括ケアが実践され、社会的包摂（ソーシャル・インクルージョン、1人ひとりを社会の構成員として取り込むこと）の視点でまちづくりが研究されつつある今こそ、看護ケアを社会に提供する・ひらく



ここ今ニティー写真展風景の様子

好機である。なぜなら、全人的な視点を持つよう教育されてきた看護師によるケアは、例えば、誰かのリハビリ（障害によりもたらされた破局的な状況を乗り越えて、自らの可能性を広げつつ、新たな人生を主体的に生きていこうとするプロセス）に伴走し始めると、その人の暮らしの場、経済活動・社会活動の場へとアウトリーチ（支援機関が通常の枠を超えて手を差し伸べ、支援を届ける取り組み）されていくからである。これが看護ケアの必然であるからこそ、社会的包摂の中でより役割を発揮するのではないだろうか。

多くの障がい者が住まい、通所する施設がとりわけ多いこの地区を、よりボーダーレスなおもしろいまちへと進めていければ、長期入院者が1人で退院しても、安心できる居場所のあるまちとなるのではという期待を込めている。

註

1) 殺処分寸前を救われ、Café こいまの店員第1号となったねこ。まちの場では痛みのある人の夢に現れ、頭の上に乗っかり「ぼくが（痛みを）取ってあげるよ」と言うそう。

2) 「地域生活支援」「就労支援」といった新たな課題に対応するため、自立訓練や就労移行支援等の地域生活への移行に資する機能を強化するための事業所。地域特性を踏まえた柔軟な運営が可能となるよう、複数の機能のサービスを実施する。「おめでたい」は、就労継続支援B型（通常の事業所に雇用されることが困難であり、雇用契約に基づく就労が困難である者に対して、就労の機会および生活活動の機会の提供、その他の就労に必要な知識および能力の向上のために必要な訓練その他の必要な支援を行う）・生活介護の機能を持っている。

3) 写真家、作家、映画監督。全国の精神科病院を訪問し、撮影を続けている。主な写真集に『ひとりひとりの人々が抱った精神科病棟』『アウトサイダー・アートの作家たち』映画監督作品に『水になった村』『家族の軌跡—3.11の記憶から』など多数。

4) 文化活動家、アーティスト。大阪市立大学都市研究プラザ博士研究員。著作『住み開き一家から始めるコミュニティ』（筑摩書房）など多数。NPO 法人 kokoima 理事。

特集
人生100年時代の
キャリアデザイン

Web



Sign in Get started



Sign in Get started

kokoima実践レポート –精神看護と居場所づくりのハザマで— ／ 第一回：「Cafeここいま」を知っていますか？



アサダワタル Follow
Mar 15, 2016 · 11 min read



kokoima実践レポート
—精神看護と居場所づくりのハザマで—

Cafeここいま概観。写真はNPO法人kokoima Facebookページより転載。



媒体: Webサイト『フレーズクレーズ』

「kokoima実践レポート—精神看護と居場所づくりのハザマで—」第一回 2016年3月15日

執筆: アサダワタル

<https://link.medium.com/bzuXq0adShb>

kokoima実践レポート –精神看護と居場所づくりのハザマで— ／ 第二回：ナラティブ写真展という取り組み



アサダワタル Follow
Jun 13, 2016 · 11 min read



kokoima実践レポート
—精神看護と居場所づくりのハザマで—

2015年6月に開催されたココ今ニティー写真展@浅香山病院のサロンスペース。メンバーにとっての原点の会場では、2012年からこれまで度々開催されてきた。



媒体: Webサイト『フレーズクレーズ』

「kokoima実践レポート—精神看護と居場所づくりのハザマで—」第二回 2016年6月13日

執筆: アサダワタル

<https://link.medium.com/EC2xoTsdShb>

kokoimaのこと、知ってください

皆さんにぜひ知ってもらいたいプロジェクトがあります。大阪府堺市は浅香山病院の精神科病棟からスタートしたプロジェクト。この病棟に長期入院する患者さんたちが、自身が被写体となって企画運営までする「ナラティブ写真展」や近隣の商店街の空き店舗を活用して立ち上げた「Cafeここいま」の運営補助などを通じて、地域での生活へとつながってゆくこと。その母体となるNPO法人kokoimaの活動が着々と進んでいます。僕はCafeここいまの立ち上げに携わったり、院内で音楽ワークショップを行ったりしつつ、現在は一応理事として関係者に名前を連ねています。

そしてやっとこさ、このことを紹介する新連載がスタートします。まずはぜひ読んでいただき、ご関心持っていただければシェアなどお願いします。

アサダワタル

kokoima実践レポート－精神看護と居場所づくりのハザマで－ ／ 第三回：院内で開くコミュニティサロンというプロセス

アサダワタル [Follow](#)
Jan 14, 2017 · 8 min read



kokoima実践レポート
－精神看護と居場所づくりのハザマで－

ココ今ニティー写真展メンバーによる事務所「ココ今サロン」の入口の様子。メンバー被写体の写真が、壁にかけられている。

kokoima実践レポート－精神看護と居場所づくりのハザマで－ ／ 第四回：いざ！地域へ！

アサダワタル [Follow](#)
Jan 14, 2017 · 17 min read



kokoima実践レポート
－精神看護と居場所づくりのハザマで－

大阪は堺市香ヶ丘町の商店街で営まれるコミュニティカフェ「Cafeここいま」。



媒体: Webサイト『フレーズクレーズ』

「kokoima実践レポート－精神看護と居場所づくりのハザマで－」第三回 2017年1月14日

執筆: アサダワタル

<https://link.medium.com/CMLVLppdShb>



媒体: Webサイト『フレーズクレーズ』

「kokoima実践レポート－精神看護と居場所づくりのハザマで－」第四回 2017年1月14日

執筆: アサダワタル

<https://link.medium.com/RTND8NmdShb>

café ここいま

三宅 博子

大阪府堺市にある「Café ここいま」。駅前の商店街の一角にたたずむ「一見、普通の喫茶店」は、実は、精神障害のある人が地域で暮らすための居場所や、地域住民との交流を育む場として運営されている「プロジェクト型のカフェ」だという。

そこでは、どのように場が作られ、どのような交流が生まれているのだろうか。

Café ここいま 立ち上げの経緯

Café ここいまでは、月1回、精神科病棟の長期入院者を主な対象に、本や音楽、映画などの鑑賞を通じて語り合う「kokoima暮らしと表現の私塾」(以下、私塾)が開かれていた。今回は、私塾第5回に参加した後、店主の小川貞子さんと、私塾の主宰者のアサダワタルさんにお話を伺うことを予定していた。

小川さんは、近隣にある浅香山病院の看護部長兼副院長として、長年、精神科にて看護にあたってきた。

café ここいまを立ち上げるきっかけとなったのは、2012年より、小川さんが中心となって長期入院者と共に開催している「ココ今ニティ写真展」だ。毎年開催を重ね、院内から院外へと開催場所をひろげるにつれ、精神障害のあるメンバー自身が写真の傍らに立って語る「ナティア写真展」へと発展していった。その過程で生まれた「精神科のイメージを変えたい」「社会貢献したい」「誰かの役に立ちたい」というメンバーの思いは、小川さん自身の思いとして、日ごとに強くなったという。

そこで2015年12月、「地域のなかに(精神障がい者の)居場所を提供し」、「地域社会を精神障がい者にとってより住みやすい場所にし」、「高齢者、子ども、障がい者などすべての人々が健やかに暮らせる地域社会づくり」を目標として、NPO法人kokoimaを立ち上げ、浅香山病院にほど近い、駅前商店街の一角にCaféここ

いまをオープンした。

「kokoima暮らしと表現の私塾」第5回、の後

この日の私塾のお題は、「映画『すべての些細な事柄 (La Moindre des Choses)』を観て、結局のところ「障害」ってなに？「幸福」ってなに？「社会に出るってどういうこと？」って話をすること。映画『すべての些細な事柄』は、フランス郊外にある精神科の診療所・ラポルド病院を舞台に、患者/治療者に二分される治療環境を見直しながら営まれる、日常の出来事を描いた作品である。どのような話がなされるのか、とても楽しみにしていた。

ところが当日、大幅に遅れてしまった。café ここいまに辿りつく、アサダさんに「ちょうど今、終わったところ」と、声をかけられる。メンバーも帰りは始めていた。間に合わなかった……と思いつつ、白を基調とした明るい店内。壁には、絵や手芸品などが飾られている。その「手作り感」に、誰かの家にお邪魔しているような気分になる。花が活けられた大きなダイニングテーブルを数名が囲み、和やかに談笑している。アサダさんや小川さんも会話に加わり、まだ残っているメンバーに映画の感想を尋ねたりしている。「映画には、いろんな人が出てきてたよね。どんな人が印象に残ってる？」「フランスと日本で、ここは似ている。ここは違う、っていうところはあった？」。それに答えて誰かが話すと、それぞれが応

じたり、応じなかったりしながら、また会話がひろがっていく。和気あいあいとした雰囲気、部屋に満ちる、その雰囲気は、これまで「もやもやフィールドワーク」で「多様な人が共にいられる場」を訪れた際に感じた独特の居心地のよさや、ゆるやかながらゆるやかな刺激を受ける感覚を思い出させるものだった。

インタビュー1: ゆるやかにいられる場

私塾には間に合わなかったが、その後の和気あいあいとした雰囲気や、人々がリラックスして語り合う様子からは、私塾の時間が、この場にとって大切なひとときであることが窺われた。月1回という活動のなかで、私塾における安心感や信頼関係のようなものは、どのように育まれているのだろうか。

「人によって違う。挨拶だけの人や、直接お話ししたことがない人もいるが、ちょっとづつ」というアサダさん。

それに対し、小川さんは、「直接言葉を交わさなくても、(アサダさんのことを)友情というのか、大事な人だと認識して、(メンバーは私塾に)お越しになっている」と語った。対人関係に限らず入院生活では、アサダさんは、メンバーにとって「重要な他者」なのだという。小川さんも、「アサダさんがすごく考えて選んだ映画だよとか(伝えている)。アサダさんからの手紙も印刷して配っている」という。この言葉から、小川さん自身、この関係を大切にしていること

事例概要

名称:café ここいま
活動期間:café ここいま:2015年12月～、
活動エリア:大阪府堺市
主催:NPO法人kokoima
活動内容:大阪府堺市のNPO法人kokoimaによって運営されている、コミュニティカフェ。浅香山病院の看護師だった小川貞子さんが、2015年、精神障害のある患者さんを地域での生活につなげることを目的に立ち上げた。ウェブサイト:http://kokoima.com/about.html

見学・参加
日時:2016年8月31日(水) 17:00～19:00
場所:café ここいま
参加費:10名程度 属性:私塾参加者、カフェ利用客、スタッフ(小川、アサダ)、計10名ほど
調査者:井尻、三宅、石橋、坂本

調査概要

インタビュー
日時:2016年8月31日(水) 17:30～19:00
場所:café ここいま
インタビュー:小川貞子、アサダワタル
インタビュー:井尻、三宅、石橋、坂本

が感じられた。

テーマ設定に関しては、「段階を踏んでいる」とアサダさんはいう。メンバーを取り巻く現状を踏まえ、リンクする内容を選ぶ。最初は、本を読んでも質問し合ったり、短い映画を観たりして、少しずつ「しゃべる場」であることを浸透させていった。

小川さんは、病院のプログラムとの違いを、次のように述べる。「病院のリハビリのプログラムには、ストーリーがあるのよ。最初の挨拶では、気持ちよききつける言葉を書くとか。このグループでの約束、人が変なことを言っても笑わないとかね。そういうことが、きちんと構造化されて、安全の場が保障されている。でも、ここに来たら、いちいちそんなことを言わなくても、雰囲気としてそういう場所を確保しているでしょう。その「まったり」が、患者さんにとって居心地がいいのだと思う。私たちも、指導者然としなくていい」。

それを聞いて、この場の成り立ちが、少しは見えたとような気がした。互いに大事な他者として出合い、あるべき役割関係やあらかじめ共有された構造を明らかにしないまま、ゆるやかにいられる場。そのような場でこそ、安心して自己や他者と向き合う関係が育まれるのではないだろうか。

インタビュー2: 多様な人が交わる場

小川さんによれば、精神障害のある人

が退院した後のいちばんの課題は、孤独だという。そこで、精神障害のある人を地域に受け入れてもらうための居場所として、カフェを開いた。

なぜ、カフェだったのか。これまで長い間、病院というシステムのなかで働いてきた小川さんは、まず、自分自身が地域のなかで生きるという体験を取り戻さうと思ったのだそう。それが発展して就労やグループホームというかたちをとることがあるにせよ、「自分がまちのなかで居場所を作る、っていうことが先やなってきた」。

この場を聞いてみて小川さんは、「孤独なのは精神障害者だけじゃないんだけど、つくづく思った」という。一人暮らしの人や、旦那さんが認知症になった夫婦など、生活のなかで何かしら孤独を抱える人たちが居場所を求めて、ここへやってくる。そのような人は、店に来るメンバーのことを、ごく自然に受け入れてくれるという。メンバーの描いた絵に「すごいね」と声をかける人がいて、そこでのおしゃべりの会話が、絵に描き込まれたこともあった。『症状の重い人と場所を共有できる。その共有のしかたは、こういうのなんだと思った』と、小川さんは言う。

そのために小川さんは、訪れる人に積極的に声をかけ、誰かとの会話をつなぐことを心がけている。開店当初、大きなテーブルを切り離して一人で座れる席を作ったが、場をつなぐと会話が生まれることがわかり、もう一度テーブルをくっ

つけてつないだという。テーブルに飾った花や、飼っている猫も、会話をつなぐ重要な役目を果たしている。

居心地のよい場を作るために、小川さんが気をつけていること。それは、人の変化に応じて「常に環境を変える」ことだという。「微妙に人は動くでしょ。常連さんがこしばらくはいらなっしらないとか、この近くで大きな工事現場があったから、職人さんが恥ずかしそうにちょっと覗いてくれるようになったとか。そういう変化に対して、自分の感性と相談しながら、場の雰囲気や料理のメニューを変えていく」。このことを小川さんは、こう言い表した。「居心地のいい場所に、居心地のいい変化を」。

café ここいまでは、その場を訪れる人も、場を運営する人も、常に揺らぎながら、その揺らぎに応じて、絶えず変化を重ねている。日々のそのような営みこそが、café ここいまを、孤独や生きづらさを抱える人にとって安全で居心地のよい場にすると共に、多様な人々が交流する「交点」として地域に根づいていく道をやっていくのだと思う。

東京迂回路研究

東京迂回路研究 / 研究員: 三宅博子、小川貞子、アサダワタル、井尻、石橋、坂本

【連載】関西出張レポート④_café ここいま

2017年01月24日
2016年8月30日～9月1日、「もやもやフィールドワーク調査員」の



媒体: Webサイト「東京迂回路研究」/ 連載「関西出張レポート④」2017年1月24日

執筆: 三宅博子

<http://www.diver-sion.org/tokyo/2017/01/kansaireport04/>

媒体: 「JOURNAL 東京迂回路研究3」2017年3月発行

発行: アーツカウンシル東京

執筆: 三宅博子

●サービス提供時間

営業日:火曜日～日曜日(月2回火曜日にミーティングを実施)

時間:午前10時～午後4時

定休日:月曜日・火曜日

●工賃

一人一人の活動に応じて、支払います!

●昼食の注文ができる

1食250円

●おめでたいの1日の流れ

[午前]

10時00分 作業・創作活動

12時00分 昼食

[午後]

1時00分 作業・創作活動

3時30分 掃除

4時00分 終了

●その他

おめでたい企画あり!

レクレーションも、週1回ほどミーティングもあります!

就労継続支援B型・生活介護

おめでたい

〒590-0011 堺市堺区香ヶ丘町1丁9-1

Tel: 072-220-5458

おめでたいの意味

生きていて、
友達とおしゃべりできて
おいしいと感じられて
毎日通う場があって
そうした日々の営みが、
人生を晴れやかに
おめでたくし
やがて、わたしは
おめでたい人になっていく。

おめでたいはどんな所?

1. 好きなこと、得意なことに取り組み、楽しく時を過ごす努力ができる場所。
2. おめでたいの指定する仕事に取り組み、働く体験と訓練ができる場所。
3. 無理をしないでにしんどいと言える場所。